令和5度　学校評価（自己評価）報告書

認定こども園千葉明徳短期大学附属幼稚園

1　本園の教育理念・目標・方針

● 教育理念

学園建学の精神に基づき、豊かな情操と自主自立の態度を養い、心身共に健康な幼児を育成する。

「明徳を明らかにすること」が建学の精神である。明徳とは、人が天から得たすぐれた能力、人間として生まれながらにしてもっている人間性をいい、明徳を明らかにする、とはそれを輝かせるということ。

　そのためにはまず、幼児期には健康な身体と、他者との対話力、直接体験を通した知恵と知識を身につけ、徳性・知性を究める。そうすれば、善悪の判断ができるようになり、心が正しく豊かなものになると、創立以来引き継がれています。

● 教育目標

明るく・強く・素直な子

● 教育方針・特色

めいとくの森で自己形成する楽しさを実感する

～将来伸びる子は自然を通して、知的好奇心を育んでいます～

①自然とかかわり、五感（視る・聴く・嗅ぐ・味わう・触れる）をはたらかせて知を育み楽しむ保育

②身体を動かして遊ぶ楽しさを実感する保育

③ものを作る楽しさと、試行錯誤しながら工夫するおもしろさを味わう保育

④さまざまな思いを共感しあい、人とのかかわりを豊かにしていく保育

2　本年度のねらい

　50年余りに渡り積み重ねてきた本園の保育実践をもとに、一人ひとりの子どもを大切にし、明徳の自然の中で友だちとの気づきや感動を共有して遊び、さまざまな人とつながり生きる力を育てていく。

幼稚園機能と保育園機能をもつ幼稚園型認定こども園として一体的な教育・保育を行う。

3　総合評価

<table>
<tr><th>No</th><th>評価項目</th><th>評価のまとめ</th></tr>
<tr><td>1</td><td>教育目標・教育方針</td><td rowspan="2">教育目標、教育方針のもと指導計画を立て内容を検討してきた。コロナが5類へ移行したことから行事の見直しを行い、ねらいに即した活動を展開してきた。その年の子どもの育ちに応じて活動を展開してきたが、今までとは違う内容になったことから保護者からマイナスに捉えられてしまう場面もあった。内容の目的や経緯について細やかな説明が必要だったのではないかと課題が残る。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>教育課程・指導計画</td></tr>
<tr><td>3</td><td>教育環境</td><td rowspan="2">恵まれた自然環境を活かした保育を展開していくために、園内研修を設け園庭の自然物について学ぶ機会を作った。子どもの興味に寄り添って活動を展開していけるように、保育者自身が発信して環境を準備し、発見と感動を経験し学びにつながるようにしてきた。また、幼小連携面では、小学校の就学時健診に園の職員が参観に行かせていただいたことや園児と児童が秋の自然を使って一緒に遊んだり学校内探検を経験したりすることで、就学への期待が膨らみ連携を取ることができた。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>教育の内容方法</td></tr>
<tr><td>5</td><td>教師の役割・資質の向上</td><td>保育者としての姿勢について見直しをし、子どもや保護者の想いに寄り添って保育にあたるよう心がけている。しかし保護者対応や子どもへのかかわりで配慮が十分でない場面もあったため、あらためて園内研修等の機会を設け、共通意識をもって保育者としての役割を明確にしていく。研修については千葉市幼稚園協会の研修、また短大の教員と一緒に他園の保育参観や意見交換などの研修に参加し、資質の向上に努めた。</td></tr>
<tr><td>6</td><td>特別支援教育</td><td>支援が必要な子どもに対してのかかわりを職員間で共有し、連携を図りながら取り組んできた。職員の研修参加の機会を昨年度よりも多く持ってきたが、さらに専門機関や保護者との密な連携を図り、子どもたちが過ごしやすい環境作りを心がけていきたい。</td></tr>
<tr><td>7</td><td>保護者との連携</td><td>行事実施後は保護者が、意見や要望などを出しやすいようにアンケートを取ってきた。一つひとつの内容について真摯に向き合い、園の取り組みや考えを伝え、ご理解いただくように努力してきた。
スイミングスクールでの水遊びやお泊まり会、2学年合同の運動会などを開催し、その中で成長する子どもの姿を見据えながら、保護者が希望している内容に寄り添えるように進めてきた。しかし、その年の子どもの姿に合わせながら、内容や取り組みの方法を検討していくため、なぜ今年は今までと違う内容なのかと疑問をもつ保護者の意見もあった。具体的なねらいや内容、開催方法の理由など理解いただけるよう、さらに丁寧なお知らせをしていきたいと考える。</td></tr>
<tr><td>8</td><td>子育て支援</td><td>学年によって、預かり保育の需要が増えたことを踏まえ、預かり人数の定員を増やしたり時間外での預かりを行ったりと、柔軟に対応してきた。また、他の園へ見学に行き預かりの様子を学んだり、本園の預かり保育担当の職員の意見を受け、改善点を出し合い子どもが過ごしやすく、保護者が安心して利用できるように努めてきた。
子育て支援ひよこ組は、子どものみの登園開始日を2月からとしたことで、安定して登園できている。これは保護者と子どもと保育者の三者が信頼関係をしっかりと築くことができたからだと考える。
「平日園ＪＯＹ」に参加される保護者が増えたことで、園の理解を深めていただくきっかけとなっていると思われる。</td></tr>
</table>

9	運営管理	芸術推進チームと園庭推進チームを新たに職務分掌の役割に加えたことで、季節や子どもの成長に応じて、保育環境を見直すきっかけとなり、積極的に職員自身が計画を立て明徳の保育のあり方について学んでいる。 避難訓練は月1回実施し、職員が状況に応じて避難誘導ができるよう、予告なしの訓練を数回実施した。不審者侵入の避難訓練も警察署指導のもと実施しているが、門の施錠について強化してほしいと保護者から意見が出ているため、課題である。
10	学園内での連携・交流	本学園理事長が園庭活動の中で、子どもたちと虫や木の実について話をしたり調べたりしながらかかわることで、知識を深める機会を持つことができた。 短大の学生と教員が園児と一緒にリズム遊びやわらべうた遊びをしたり、歌や楽器の演奏をし園児が聴いたり見たりして表現活動を楽しめる場を設けたことで、豊かな感性を育てる環境を作ることができた。

4　今後取り組むべき課題

運営管理	預かり保育の需要が増えて来ていることを踏まえ、子どもたちが良い環境の中で過ごすことができるよう預かり保育の内容や時間の延長についても検討していくことが必要である。安全面においては、不審者侵入対応や門の施錠、降園時保護者へ安全に引き渡す方法など学園本部や学園警備とも連携を取りながら対応する。 行事の取り組みは、保護者からの意見も参考にしながら、教育活動に理解していただくようにする。
教職員の資質向上	子どもへのかかわりや保護者対応について、保育教諭としての姿勢をあらためて見直し、安心して園で過ごせることができるように配慮する。研修内容の充実を図り、他園の保育を参観できる機会をつくっていきたい。子どもの育ちを見ながら、保育内容を検討し、生活環境を整えていく。
子育て支援の取り組みの充実	子育て支援ひよこ組で保護者と連携を取りながらお子様の育ちを見守り、集団生活の経験の楽しさが味わえる保育内容の充実を図るとともに、園庭開放、園ＪＯＹを引き続き行い園理解を深めてもらう場を作って行く。